＜2021 年 7 月 19 日号 内航海運新聞掲載＞

「内航船の日」

# 記念手ぬぐい展開催

## ～ 内航船で東京・墨田区を元気に ～

２０２１年の記念日「内航船の日」。

収まらない新型コロナの感染拡大の中、昨年と同様、記念日イベントを中止せざるを得ませんでした。ただ、内航船は今も絶えず動いています。緊急事態にこそ、市民社会を支える内航海運の物流をイメージしてもらいたいと考えてきましたが、２年目ともなると、市民社会を支えているのは陸も同じ。様変わりしていった日常生活の中で、個々人でも無力感や孤独感と闘い続けている人も多いと思います。思考が内側にこもってしまった時、イメージを海に広げてほしい。みんなで乗り越えよう。島国の海にも闘っている商船船員たちがいます。（そして、高齢船員も多く乗り込む内航船に未だ新型コロナワクチン接種の見込みが立っていないこと等にも目を向けてもらいたい…）

全日本内航船員の会では、事務局を置いている東京都墨田区の近隣の方に向けて、そっと小さなイベントを開催することにしました。お祭りが消えた夏の東京下町を励ます、私たちにもできることを考えました。

ウワサを聞きつけた内航海運新聞の記者が取材に来てくれましたので、記録として紹介させていただきます。（全日本内航船員の会 事務局）

内航海運新聞（令和３年７月19 日号）の記事を紹介いたします。　以下転載

---

### 内航船の日

## 『 記念手ぬぐい展開催 』

### ～ 内航船で東京・墨田区を元気に ～

全日本内航船員の会は現在、東京スカイツリーのふもとにある下町の銭湯「大黒湯」のロビーで「内航船の日　記念手ぬぐい展」を静かに開催している。展示期間は7月末まで。

「内航船の日」とは、内航船が好きで、船員たちと交流してきた一般市民が、「ナナ・イチ・ゴ」→「ナイコー」であることから、 7月 15 日を「内航船の日」にしようと呼びかけ、２０１５年に日本記念日協会によって認定されたものだ。

同会では毎年7月、「内航船の日」を記念したＰＲイベント「海から届ける写真展」を同会場にて開催している。松見準事務局長は、「ＳＮＳによって生まれた記念日なので、Ｔｗｉｔｔｅｒ（ツイッター）では毎年7月 15 日に大きな盛り上がりをみせる。陸側から海側に投げかけてもらえた記念日に対し、海運の世界からの反応がなければ、せっかくの記念日が台無しになってしまうと考えた」と写真展開催の経緯を語る。

「海から届ける写真展」は、全国で働く現役の内航船員から寄せられた「海」に関わ

る写真をプリントして展示。大黒湯の夏の恒例イベントとして定着し、地元の常連客のみならず、遠方から足を運ぶ人もいる。しかし、昨年は新型コロナウイルス感染拡大を受け中止に。コロナ収束の見通しが立たない中、今年も中止を決断せざるを得なかった。

その一方で、「自粛の生活が2年目を迎え、本当に大切なことは何なのかを考える機会になった人も多いのではないかと思う。仕事や人間関係、日常の幸せについて考え方が変わった人もいるだろう。そのような中、普段であれば下町のお祭りムード一色になったり、元気いっぱいのイベントが続くこの地域（東京都墨田区）がすっかり沈んでいると感じた」といい、「自分には大きなことはできないが、日頃お世話になっている地域の人々が日常の中で『クスッ』としてもらえるような何かができれば最高ではないか」と考え、今回の記念手ぬぐい展を思いついた。

会場はこれまで写真展を開催してきた大黒湯。「写真展を開催する度に、陸の人たちと洋上の船員たちを現実でつないできた貴重な接点」だからだ。会場には、これまで制作してきた6本の手ぬぐいを展示。それぞれにダイナミックな内航船の姿がデザインされている。「ふらりと訪れた銭湯で『そういえば、毎年船の日をやっていたな』と思ってもらう。そうすることで、自粛の裏側でも私たちの暮らしを支えている内航船が動いていることを感じてもらえる。淡々とした日常に『非日常』や夏らしい『海風』を感じてほしい」と記念手ぬぐい展に込めた思いを語る。

大黒湯は毎日様々な薬湯風呂を企画しているが、7月15日の薬湯名は「内航船の湯」。同会がこれまで積み重ねてきたものが、地域にしっかりと根づいている表れともいえよう。松見事務局長は、「多くの海事イベントが市民社会との共感の中で発展していくことを願っている」と述べ、今後も内航海運の認知度向上や、陸と海とが共感できる社会の醸成に注力する構えだ。